NIE実践報告

1．タイトル **新聞を身に感じ、授業に役立てる**

2．学校名

沖縄県糸満市立三和中学校

3．実践者名（代表者名）

新垣光史

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　31人

6．単元（本時の学習課題）名

現代社会とわたしたちの生活

7．目標(狙い)

教科書にある内容だけでなく、新聞を通して、今、現在社会情勢の中で起きている出来事を「見つけ」、身近なこととしてとらえることができる。

8．評価の視点

毎時間、授業が始まる前に行う、「今日のニュース」の場面での発表や記事への意見・感想を書くことを通して評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

本単元で興味を持ってもらい、後半部分にある「地方自治」の学習単元の時に、地元の政治に目を向けられることにつなげたい。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①あくまでも、自由な発想を展開させ、「間違いではない、一人一人の見方・感じ方があるんだよ」という感覚を養っていくことに重点を置く。
②一方向からの考えではなく、多くの「世論」を基にして、「自分の考えの確立」を目指すことを目的とする。
③固定的な概念を押し付けるのではなく、多くの情報を手に入れる手段の一つとしての新聞のメディアの存在を考えてもらう。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「新聞を読む時間が日ごろないので、授業で読む時間があると、ためになる」「見ることは見るが、意味が分からないので、授業で質問できる」「読みたい時に近くにないので、もういいよという気持ちになる時がある」「授業で習ったことが、意外と新聞に載るのでよい」「友達の記事が載った時にすごいと思った」

12．成果と課題

日ごろ、新聞に接しない生徒が多い中で、次第に毎日のニュースに興味・関心が出てきて、授業での発表が増えた。半面、活字になると、読むのが苦手な生徒がいたりと、すべての生徒が新聞に対して評価が高いわけではない。今年度は、新聞に親しむ生徒を増やすことを第一の目的に取り組んできた。社会科の授業における場面に、図書館司書への協力を求め、図書館での活用の充実も図った。地域的に新聞を取っていない家庭も多いことに気付いた。